

生きたいという気持ちいっばいで
つらいとかしんどいと思う余裕がなかった

お兄さんが亡くはつた、お母
さんと離れる暮さはけれはなう
はくばつた、食へるものがはく
てひもじい思いを毎日しはけれ
ばはなない、どれをどうもつ
らいことばかりだつた。

でも、今日を生きることに精一杯で、そんなことがあつてもつらいとかしんどいと思う余裕がなかった、と橋本さんは語る。

私はそれを聞いたとき、何かたまらぬ気分になりました。

想像することでも、さばい心境で、

てくへい、まにうのまが、
うにま、うへま、うま、うま。

死有何万人とか、言葉で言う
とそれまでけど、その何万人
の一人一人にそれぞれの人生が
あり、一生懸命生きまきに歴
史があり、家族があり、友だ
ちがあり、仕事があり……。
そんなことを考えながら、橋
本さんの話を聞いていました。
堅橋さんが、たくさん的人生が失わ
れました。二度とあ、こぼしく
ばいず。

55 期生の仲間たち

東三国中学校 1 年生学年通信 vol.18 2015 年 6 月 16 日(火)

私は平和で、橋本長子さんの話を聞き、
びっくりしたことや、わかったことがたくさん
ありました。

「執事が一番つか、たことは何ですか。」と聞いたときに、楠本さんははいと言つて、びくりました。私だ、ちやうどそれ何もで、きりました。私だ、ちやうどそれ何もで、きはいにうつと思つていたけど、楠本さんは、「生きているという気持ち、いっほいて、つらいとか、しんどいと思つて、余裕がほか、」と聞くと、うん、と答へました。

こわが、にことは、焼い弾が降、くるると
きに橋本さんは大きな木の下に分かれていた
ら、耳の傍を焼い弾が通、ていったと聞、
おぶくツツとしました。

小治六年に戦争の勉強をしたけど、それ以上戦争のことは知れたのでもないです。

「ぼくは、今日の平和学習で、大阪大空襲がどんなものだったのか、わかりました。」

そのとう、男の人の、持米の袋が突隊にと
言、ていました。自分が死んでしまふのに、
なぜ突隊にはりたのか、ぼくには、わかり
ません。ぼくは、突隊にはりたくありません。
爆弾が落ちたとき、一腹はどがやぶれたり
します。若うたしん勤が、胸にくる、ごどん
ご隆じかばと思ひます。

豊洲のときに、「つうか、にこはありま
すか」とありました。どのときに「はい」と
言っていました。ほくは、食べものがはか
たり、お兄ちゃんが死んだり、お母さんや
お父さんとは別れたりしたらつういふす。ほ
のに「はい」といつていたのぞ、橋本さんは
強いと思いました。

今日ハ戦争の出発点についで橋本長久さん
に来ていだきました。橋本さんはみんなが
聞きとりやすいようにゆくり、こいぬいに
伝えてくれました。

私に、たうとか何とばなうと欲うてニ
うが多々ありました。男の人は天皇陛下の
ために命をささげると言いますが自分が男だ
たら天皇陛下、國のためにでも命をささげん
が出来はいいです。女の人は命をささげて下
さいと言ふ、て見送りますが、私は誰かの
ために命をささげんとは絶対したくはない
です。命をささげたいと言ふのも嫌です。

戦半は人間と人間が殺し合うもの、というフレーズがどこにもに残っています。なぜかというところの中では殺し合う、というところが、なかのなか、にからず。鈴木さんは辛いことがはいと、ていまして、それがなぜか、理由を聞いてもわからないうままです。